

# 日本パペットセラピー学会(JPTA)からのお知らせ

\*主な記事：第18回大会ご報告、ダニエラ・ハダシーさんの近況、第19回大会ご案内等  
ニューズレター 2024 No.2

2024年11月1日 JPTA事務局 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1 尚綱学院大学 東研究室内  
メールアドレス info@j-pta.net

今年度日本パペットセラピー学会第18回大会が近喰ふじ子大会長のもと、東京家政大学で開催され、学生や院生、教育・保育・心理・医療・福祉関係者等、様々な分野の皆様にご参加いただき、大盛況に終了いたしました。今回は当日の熱気を含めて大会の様子をお知らせいたします（編集長：中下富子）。

## 日本パペットセラピー学会第18回大会を終えて

大会長 近喰 ふじ子（コンジキ フジコ）

テーマ：子どものころを育てるためのパペット教育を考える  
～明日からの第一歩を踏み出すために～

日時：2024年9月29日（日）9時30分～17時

会場：東京家政大学14号館2A教室（東京都板橋区加賀1丁目18-1）



本大会は9月29日（日）に実施しました。今夏の気候は人体の体温を超える暑さが続き、開催日が危惧されたものの、幸いにも日差しは秋の気配を感じさせられるものでした。大会長として、今回の大会テーマについて「初志貫徹」を貫き、「不登校対策」への一貫した思いを果たせたことは爽やかな思いと同時に非常なストレスが与えられた状態でもありました。幸いにも、大会準備委員の東理事、安藤理事、千葉理事、根岸理事に協力・支えていただいたからこそ成し遂げられたものと、改めて感謝を申し上げます。会員のみならず非会員の方々にも多くご参加いただきありがとうございました。以下に、大会アンケート結果の概要と私的感想を述べてみます。

1. 参加された方々の年齢について：参加者は会員、非会員ともに60歳代以上が多く、会員は71.43%、非会員は41.38%であり、後者は20歳代（27.59%）と60歳代と二極化しており、60代の方がパペットリストであると想定されました。一方、寧ろ仕事をリタイアしたのち、かねてから考えていたパペットリストを目指し、新たな学びとしての参加ではないかと想定されました。今後の大会に向け、20～30代の方々にも多くご参加していただけるような工夫が必要かと考えられました。

2. 職種について：参加者の職種を見ますと、会員の方々には必ずしもパペットリストの方が多いとは限らず、教育・研究機関関係者の方が、行政・自治体や福祉・事業所に所属している方々よりもやや上回っていました。職種への問いに対し、一人の参加者が2～4つの職種をお持ちの方が多く、「現在のお仕事はなんですか」

と問いを変えて良いのではないかと考えられました。

3. 大会の内容について：会員、非会員の方々からは共に「とてもよかった」が57.14%と最も多くホッとしました。また、「とてもよかった」「よかった」を合わせますと90%以上の方々からお褒めをいただきました。参加されました皆様がお持ちの知識や理解の仕方は多様で、受け止め方は異なりますが、大会への肯定的意見が多かったことに、こころから感謝を申し上げます。

なお、筆者の監訳によります書籍「ごっこ遊びの理論と事例 スーザンリン著」医学出版（2021年）は完売となりました。





## 第18回大会に参加された皆様より（敬称略）

久保田 暖(クボタ ノン)

午前、午後共に勉強になるお話が盛りだくさんで、一学生としてとても成長できた一日でした。一般演題やシンポジウムでは避難児、発達障害児、不登校児などに対してパペットを介入させることの効果が伝えられ、まさに今大会のテーマである「明日からの第一歩を踏み出すために」にぴったりなお話でした。

パペットシアターでは実際にパペットを手に取り操作を試みましたが、初めてお話しする周りの席の方々ともスムーズに話すことができました。実際に初対面の方とお話しすることで、気心の知れた学友との学びでは感じにくかったパペットの機能のひとつである安心を肌で感じることができました。

ぜひ来年の学会も参加して、パペットへの理解を深めていきたいです。

麻生 初穂(アソウ ハツホ)

大会は、近喰先生の小児科臨床を通じた切実な問題提起から始まり、太田先生の、日本が抱える課題や社会病理についてのお話、パペットセラピーやワークショップの様々な実践報告、いじめ防止の教育パペットシアター、グループワーク等盛り沢山で、どのプログラムもとても興味深く、あっという間でした。

特に印象に残ったのは、大会の最後に行われたグループワークのあとの発表でした。年齢、職業、立場を超え、一人の人として、皆がパペットを手にして、笑いあったことです。なんて温かい空間かと感じました。私自身、常識や規則から解放され、自由な子供心が広がっていくように感じました。とても楽しいひとときでした。

パペットが登場し、皆が笑顔になれる自由で、安全な空間が増えてほしい、子どもたちが健やかに育っていくために、何より大人が癒されてほしいと切に願っています。



佐野 和子(サノ カズコ)

先ず、近喰先生の日本の子どもは寝不足であるということと、日本人は働きすぎだという言葉にショックを受けました。生まれてからの6年間、つまり6歳になるまでに子どもがしなければならないこと、してはいけないことに関する沢山の支持や指導を与えることが大事という話は、5人の子育てをした母親として感銘を受けました。

また、太田先生のお話の中の医療システムについて、アメリカ、デンマークそして日本についてお話が有りましたが、私は「クリニックラウン※」として小児病棟を訪ねた時、まだまだ規則や規約に縛られている病院が多いことに気づかされた事が有ります。午前中のお話は医療関係の専門用語も多く、理解できない面もありましたが、午後の一般演題は特に興味深く、特に不登校児への対策は直ぐにでも実践してみようと思いました。

自分へのお土産にスポンジのパペットを買い求め、帰宅してすぐに作ってみました。ボブ君という名前を付け、次回の施設訪問の時、一緒に連れて行こうと思います。どんな声にしようかな？



※クリニックラウンとは：「認定クリニックラウン協会」より抜粋

病院（クリニック）を訪問する道化師（クラウン）のこと。生活を送るこどもの病室を定期的に訪問し、遊びや関わりを通して、こどもたちの成長をサポートしています。



## 第18回大会を終えて：大会準備委員の皆様より

千葉 俊一（チバ シュンイチ）

2024年日本パペットセラピー学会は近喰理事を大会長に開催されました。5名による準備委員会で開催に向け準備が始まりましたが、初めは大会の運営内容が決まらず準備が間に合うか心配な状況でした。近喰大会長と安藤理事の率先的行動によって多くの難関もクリアしてきて、ようやく1週間前になって形になってきました。

ほっとしたのもつかの間、直前になり、コメンテータの体調不良での欠席、安藤理事の体調不良と相次ぎ、皆さんでかなり心配した時もありました。

しかし、新たに急遽、新コメンテーターを原さんが引き受けてくださり、パペットシアターも岡理事、出山理事の応援もあり、素晴らしい大会となりました。



東 義也（ヒガシ ヨシヤ）

新しい試みのある学会だったと思います。子育てや教育の分野に対して医学的見地からのアプローチがあり、また、不登校やいじめの問題にパペットを用いた演習の手法で参加者を巻き込んでの考察がなされたからです。

特に、私は心療内科医の太田先生から Negative capability（ネガティブケイパビリティ：今すぐ解決できない事態に耐える力）の話が聴けてよかったです。

今の世の中はなんでも解決できる、早くできる、得することを求めすぎです。人間の発達や教育のことだけでなく、差別や戦争の問題を考えると、性急にならないで忍耐をもってよく話し合い、みんなで心砕いて解決策を求めていく人間同士、国家間であるべきだと思います。



安藤 倫子（アンドウ トモコ）

第18回大会に参加し皆様と共に学ぶことを楽しみにしていたのですが、私は準備委員であるにもかかわらず大会三日前にコロナ感染し、やむなく欠席となりました。しかし、事務的な事からプログラム発表まで引き継いで下さった理事の方々のおかげで予定通り進行することができ、本当に感謝しております。

最後のプログラムにオンライン参加させていただき会場の様子を知ることができたのもありがたいことでした。パペットの機能を利用したコミュニケーションについて解明するためには、まだまだ多くの実践が必要だと感じます。皆様と直接お目にかかり交流する機会を楽しみにしております。ありがとうございました。

根岸 衣美子（ネギシ エミコ）

東理事長、近喰大会長をはじめとして、実行委員の皆様、理事の皆様、心より感謝を申し上げます。今回、何も分からずに初めて大会準備のメンバーの一人となり、沢山のことを学ばせていただき感謝です。大会の参加者であるだけの時は、気楽に楽しませていただくだけでしたので、恐縮しております。

医療現場からの講演、パペットのセラピー実践、シンポジウム、会場の皆様とパペットを介しての実践など、様々な側面からのアプローチにより、コミュニケーションに困っている子どもたち、親にどう関わるかを深く掘り下げる機会を得る事ができたと思います。

大会終了後、参加者の皆様が笑顔でお帰りになったので、本当によかったです。



## 学会企画 研修会【パペットカフェ】を終えて

研修委員長 千葉 俊一

2024年7月21日（日）14:00から60分間、Zoomによるグループディスカッション形式で、タイトル「パペットカフェ」のもと、研修会を開催し、12名の方々にご参加いただきました。

研修内容は、まず、話題提供コーナーでは岡理事のパペットづくりの工房を動画で探検、次に、グループに分かれてマイパペットでの

自己紹介&話題等ディスカッション、最後に全体でグループ別ディスカッションの様子を紹介し合いました。



### ダニエラ・ハダシーDaniela Hadasyさんの近況

名誉理事長 原 美智子（ハラ ミチコ）

皆様、イスラエルのパペットセラピストダニエラ・ハダシーさんをご存知ですか？ 新入会の方々にご紹介します。彼女は2007年の本学会設立当初から海外名誉会員として協力してくださっているこの学会の育ての親です。学会ホームページのリンク先で彼女の病院でのパペットセラピー活動の様子が見られます。2011年の東日本大震災時にはすぐにクルーと共に支援に駆けつけて下さり、その後も継続的に心を寄せてくださっています。昨年8月5日に再来日され会員主催の講演会を4か所で行い、仙台では東義也理事長の案内で震災遺構も訪れました。ご存知のようにイスラエルは為政者による昨年10月の開戦以来、地政学的、民族的な苦境の中にあります。犠牲者はいつも幼い子どもたちです。その国に

生まれた不幸を全身に受けています。ダニエラさんはトラウマセラピストとして毎日ケアに当たっています。

（写真は住み慣れた町が激戦地となり、避難してきた女の子とダニエラさんとパペットのリリー）

### 日本パペットセラピー学会第19回大会ご案内

テーマ（仮）：すべての人を対象としたパペットセラピーの幅広い可能性を探る！

障がい者、小児、若年者、高齢者等すべての人を対象に、パペットセラピーがどのように必要とされ、役立っているのか、可能性を広げられる大会にしたいと思います。様々な分野の方々にご参加いただくことを願っています。

大会長：矢崎 育子（腹話術師、山梨腹話術研究会主宰）大会準備委員：中下 富子・出山 雅章・東海林 照子

日時：2025（令和7）年10月19日（日）

場所：社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団ビル/大会議室（東京都豊島区南大塚3-43-11）JR 山手線大塚駅

### 事務局だより



今年の学会大会、若い学生さんの参加が目立ちました。パペットセラピーへの関心を持ち続けてほしいです。機関誌のバックナンバーも沢山売れました。近年の会員の関心の高さの表れでしょう。総会の告示時点で学会正会員は75名。総会成立は3分の1以上(委任状含)の出席を必要としますが、出席24、委任32、合計56で無事成立・開会されました。審議事項も全て承認。感謝でした。毎年総会で承認され予算化されている地域活動助成制度を、皆さんぜひご活用ください。今年度あと8件分(8万円)の予算があります。私たち学会員総数は10月末時点で83名です(名誉会員等含)。近く百名に達するのが個人的願いです。お近くの方にどうぞご案内ください。